

日経 23 plus+



シンガーソングライター・持田香織さんと
江戸文化の香りが残る
亀戸・大島エリアを訪ねる

歌川広重らが浮世絵に描いた「亀戸天神社」境内で。

帰るたびに 発見がある街

江東区の亀戸・大島エリアは、東に旧中川、西に横十間川、南に小名木川、北に北十間川と、四方を川に囲まれている。いずれも江戸時代に整備されたものだ。

JR総武線の亀戸駅を挟んで南北に広がる亀戸エリア。北側は、寺社や旧跡が点在する歴史の街という風情があり、南側は大型商業施設のサンストリート亀戸など、新しい街づくりが行われている。南に下つて首都高速道路小松川線をくぐると大島となり、大規模な団地やマンション群が立ち並ぶ新興の住宅街が広がる。

シンガーソングライターの持田香織さんは、そんな亀戸・大島エリアに生まれ育った。

「高校生まで暮らしていた亀戸はもちろん、友達が住んでいた大島も生活の場所でした。今も家族や親類がこの周辺に住んでいるし、地元の焼き海苔屋さんやおせんべい屋さんが私のことを覚えていてくれて、前を通りかかるとあいさつし合うこともあります。私の大切なふるさとです」

よく知った街と思っても、帰るたびに新しい発見があると言う。

「今日も、横十間川沿いの道路を車で走って亀戸天神社まで来たのですが、車の窓を開けると鳥の音が聞こえてきました。改めて静かで住みやすい街だなと思いました」

「亀戸・大島のことなら何でも聞いて」と言う持田さんとともに、このエリアを歩いてみよう。

亀戸・大島エリアは、古くは目の前に遠浅の海が広がるのどかな地だったとされる。また665年創立といわれる亀戸香取神社をはじめ、大昔から寺や神社が点在していた。

変わったのは江戸時代。幕府が明暦の大火(1657年)を機に、隅田川の東側に当たる本所・深川地区を開発し、海運や農業用水として利用できるように川や掘割を整備した。開発が進み、江戸市中との行き来が容易になると、寺社が点在する亀戸エリアは観光名所として発展していった。

その中心となったのが、菅原道真公を祀る亀戸天神社。天神様をあつく信仰していた徳川第4代将軍家綱が、江戸の街を災いから守るため、本所の鬼門に当たるこの地に社地を寄進し、1662年に太宰府天満宮にならって社殿や回廊、大鼓橋などが造られた。

亀戸天神社は、境内の藤の花と、この太鼓橋が有名だ。歌川広重の浮世絵『名所江戸百景 亀戸天神境内』にも、紫の藤の花房とともに太鼓橋が描かれている。その太鼓橋は第2次世界大戦の東京大空襲で焼失したが、今は石造りの赤い太鼓橋に生まれ変わり、参拝者を楽しませている。

赤い太鼓橋で記念写真

「子どものころから、天神様の赤い太鼓橋が好きでした。七五三のときに両親と一緒に撮った記念写真も、ここだったんです」

それ以来、持田さんの生活の中には常に天神様がいた。

持田さんの著書『ミドリノヘイワ』(マガジンハウス刊)を読むと、当時の様子が詩に描かれている。

亀戸天神様の中であくれば池のこい達にパンくずをあげ

日が暮れるまで遊んでいた

亀戸天神様

何かの願い事の際には

10円玉を片手に

本堂へ

いつもいつも

ありがとう

亀戸天神様の中であくれば

「友達と近くの銭湯に行った後、風呂上がりの髪も乾かさずに天神様へ行き、ごあいさつしてから境内でアイスクリームを食べるのが楽しみでした」。持田さんの思い出だ。

江戸から続く、味と技

亀戸天神社を出ると、周囲には江戸時代から続く老舗がある。

「子どものころは気が付かなかったのですが、亀戸は亀戸天神社の門前町という顔も持つんですよ」と持田さん。

その一つが創業205年という「船橋屋 亀戸天神前本店」。創業以来変わらぬ製法で、くず餅を作り続けている。明治初頭には既に名店の評価を得ていたようで、当時のかわら版『大江戸風流くらべ』の中の「江戸甘いもの屋番付」では、「亀戸くず餅・船橋屋」が横綱として紹介されたという。

江戸の技術を今に伝える、べっこう専門店もある。「鼈甲磯貝 亀戸天神鳥居前店」がそれだ。代表の磯貝實さんの技術は江東区の無形文化財に指定され、本人も2009年度「東京優秀技能者(東京マイスター) 知事賞」を受賞した。磯貝さんは弟子の育成にも力を入れ、江戸職人の技の伝承に努めている。亀戸天神社のほかに、このエリアには多くの名所旧跡が残る。亀戸天神社に程近い亀戸香取神

天神様が亀戸を作り 川が大島を開いた その歴史をたどる



Navigator

持田香織

1978年生まれ。「Every Little Thing」のヴォーカル。

96年「Feel My Heart」でデビュー。

2ndアルバム「Time to Destination」は400万枚を超える大ヒットとなった。

14thシングル「sure」以降はほぼすべての楽曲の作詞を担当。

音楽家・半野喜弘、渋谷慶一郎らとのコラボレーションによる最新セカンドソロアルバム「NIU」、Every Little Thing LIVE DVD『Concert tour 2009~2010"MEET"』も販売中。

1 亀戸天神社

2012年に「御鎮座350年記念」を迎える天神様の境内には、商売繁盛の御嶽神社、安産の花園社、芸能成就の弁天社、太宰府天満宮にある御神木の「飛梅」を祭る紅梅殿の4つの社があり、信仰を集めている。

④江東区亀戸3-6-1
☎03-3681-0010
受付時間：8時30分～16時30分



2 船橋屋 亀戸天神前本店

亀戸天神参道に1805(文化2)年に開店した老舗。くず餅、みつ豆、あんみつ、豆寒天などの甘味が人気。亀戸エリアには本店のほかにも店舗、売店がそれぞれ1店ある。

④江東区亀戸3-2-14
☎03-3681-2784
◎9～18時(店内喫茶は17時まで)
年中無休



3 亀戸升本 本店

1905(明治38)年創業。減農薬栽培した亀戸大根を契約農家から仕入れ、「亀戸大根あさり鍋」(2415円)などで提供する。昼の膳「亀戸大根あさり鍋めし」(1380円)もある。

④江東区亀戸4-18-9 ☎03-3637-1533
◎(月～金)11時30分～14時、17時～21時30分(L.O.21時)、(土日・祝)11時～14時30分、17～21時(L.O.20時30分)
◎第3月曜(祝日の場合は翌日) ※8月、12月を除く



4 猿江恩賜公園

園内南側には日本庭園を巡る遊歩道のほか野球場などがあり、北側は1周1090mのジョギングコース、テニスコートや、芝生広場といった憩いのスペースがある。

④江東区住吉2丁目、毛利2丁目
☎03-3631-9732(猿江恩賜公園サービスセンター)



5 鼈甲磯貝 亀戸天神鳥居前店

海亀の甲羅から作られたべっこうを素材に、職人が伝承の技で各種商品を作り販売。耳かき(3990円)やペーパーナイフ(1万5750円)などもある。写真は「べっ甲 耳かき ロング」(5000円)。

④江東区亀戸3-3-6
☎03-5628-1244
◎10～18時
◎水



6 中川船番所資料館

10月30日から、江東区の歴史や文化を伝える「郷土の歴史・文化紹介展示室」として2階展示室をリニューアル。3階には、中川番所をジオラマで再現した展示などがある。

④江東区大島9-1-15 ☎03-3636-9091
◎9時30分～17時(入館は30分前まで) ◎月(祝日及び振替休日の場合は翌日)、年末年始、展示替え期間など 観覧料/一般200円、小・中学生50円





社は江東区最古の神社といわれる。江戸時代には毎年1月14日

に疫病を除く「道祖神祭」が行われ、今でも祭りで使われた宝船が江東区有形民俗文化財として保存されている。境内には、江戸末期に栽培が始まり、神社周辺が栽培の中心地だった「亀戸大根」の発祥を記念した碑が建てられている。

普通の大根より小ぶりだがビタミンCを多く含むという亀戸大根を食べられる店が「亀戸升本本店」「亀戸大根あさり鍋」「亀戸大根ステーキ」などの亀戸大根料理が名物だ。

JR亀戸駅近くの文泉公園は、持田さんの子どもたちの遊び場だった場所。江戸時代に寛永通宝銭を鋳造する「亀戸銭座」の跡で、ここで造られた寛永通宝の裏面には「文」の字が入っていた。「背文銭」と呼ばれたため、その文銭が文泉の由来といわれる。公園から少し歩くと「亀戸銭座跡の碑」が建つ。

水と緑とが調和

大島エリアは水と緑との調和が取れた住宅地だ。南側には、隅田川と、旧中川とをほぼ一直線で結ぶ小名木川が流れる。この川は、徳川家康が領地を發展させるために掘った人工河川。当時は全国各地から運ばれてきた食料が、小名木川を通る船によって江戸に陸揚げされた。

当時の様子が見られる場所が、大島9丁目にある「中川船番所資料館」。3階フロアでは、江戸と関東周辺とを結ぶ河川水運の様子などを紹介する。リニューアルした2階は江東区の歴史や下町の暮らしを

展示物で振り返るスペース。昔の生活コーナーでは昭和30年代から40年代の台所や居間を再現。古い冷蔵庫やちゃぶ台などが置かれ、生活の様子を再現している。

持田さんおすすめの散歩エリアは「猿江恩賜公園」。この一帯は、かつて猿江貯木場だった。幕府の材木蔵として造られ、その後皇室の御用材の貯木場となり、払い下げられて1932年に新大橋通りを挟んで南側が公園となった。園内の日本庭園には散歩道や水鳥の遊ぶ池がある。北側も、林野庁所管を経て公園になった。ピクニックができる芝生広場などが連なるが、横十間川の護岸には木材を長期間貯蔵する際の重りとして使われた石が使用され、当時の面影をしのばせる。

歴史や文化を後世に

改めてこのエリアの歴史や文化に触れた持田さんは、感慨深げだ。「子どものころに見た亀戸や大島と今の風景は、やはり変わりましたね。でも神社など歴史ある建物や、江戸の技は変わらず残っている。私たちは、そうした先人たちが伝えてくれたものを、後世にきちんと残していかなければいけないと改めて感じます」
そう言って天神様に手を合わせた。

大人が楽しめる亀戸・大島エリアのスポット



More Kameido & Ojima!

▶ 寺社の多い亀戸エリアでは「亀戸七福神」巡りができる。順路としては、東武亀戸線亀戸水神駅近くの常光寺(亀戸七福神の寿老人)を出発地点として西へ向かい東覚寺(弁財天) → 亀戸香取神社(恵比寿神、大国神) → 普門院(毘沙門天) → 天祖神社(福祿寿) → 龍眼寺(布袋尊)と巡るのが効率的。徒歩で90分ほどのお参りルートだ。

